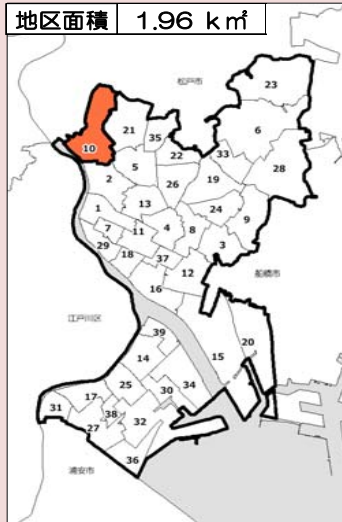


10 国府台小学校区

(1) 位置



(2) 地区概況

◆位置

国府台小学校区は市の北西部に位置し、地区の北側は松戸市が隣接しています。また、西側は江戸川に面しています。

◆地形・土地利用

地形は、主に平坦な台地で構成されています。
地区の北から東側は、第一種低層住居専用地域の住宅地となっており、戸建て住宅が建ち並び、学校施設も多く存在しています。また、地区の一部は風致地区に指定されており、歴史的跡地も多く存在しています。

◆都市基盤

地区の東側には外環道路、南北にかけて県道1号線（松戸街道）が通っています。地区内にはじゅん菜池緑地や里見公園があります。
また、地区の北部には北総線が通っており、矢切駅が地区外の西側に近接しています。地区内には、JR市川駅に行きの京成バスも通っています。

(3) 人口・建物概況

◆人口

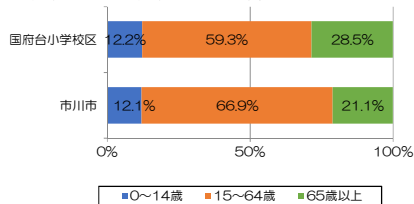
年齢別割合

	国府台小学校区	市川市	割合※
人口総数	12,875人	487,621人	2.6%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 12,503人

平均値：39地区の平均値を示しています。



地区の人口は、全地区の平均人口よりやや多いです。また、市全体と比較すると65歳以上の割合が高く、比較的高齢の世代が多い地区となっています。

◆建物

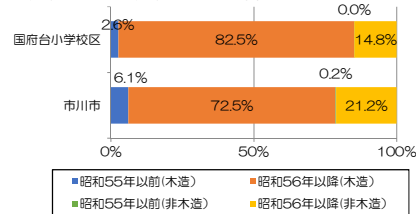
構造別割合

	国府台小学校区	市川市	割合※
建物総数	4,824 棟	114,958 棟	4.2%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 2,948棟

平均値：39地区の平均値を示しています。



地区の建物は、全地区の平均棟数より多いです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合が高いです。また、木造建物がやや多い地区となっています。

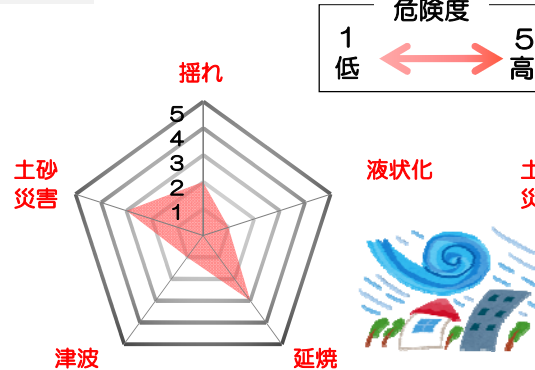
(4) 災害リスク評価

市川市防災カルテ < 国府台小学校区 >

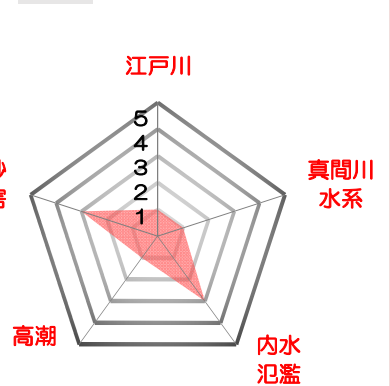
災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区の現況データを用いて相対的に評価しています。なお、危険性がない場合でも1となります。

◆災害に対する弱み（マイナス面）

地震

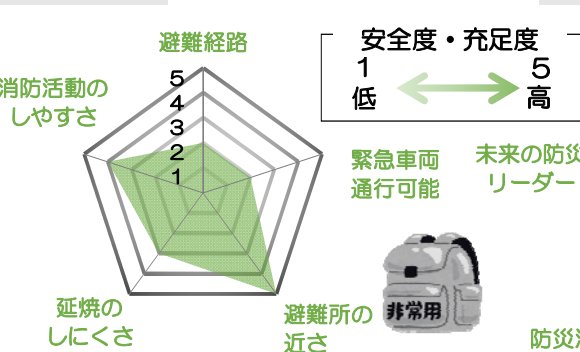


風水害

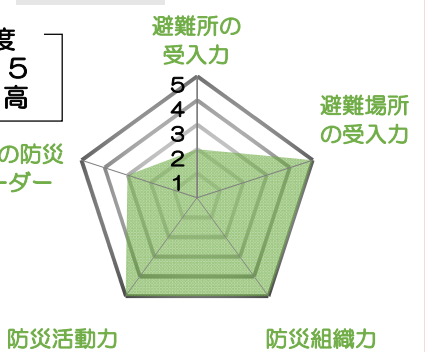


◆災害に対する強み（プラス面）

まちの安全性



地域の防災力



◆評価

国府台小学校区は、地震災害については、最大震度6弱の揺れが予測され、延焼による危険性があります。また、風水害については、地区内にがけ崩れ危険区域があることから、土砂災害の危険性があります。

一方で、まちの安全性については、避難所の近さは高い傾向にあるものの、避難経路や緊急車両通行可能は低い傾向にあります。また、地域の防災力については、避難場所の受入力や防災活動力は高い傾向にあるものの、避難所の受入力は、低い傾向にあります。

(5) 防災関連施設

◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
国府台小学校	-		
北国分老人いこいの家	○		

◆避難場所

名称
国府台小学校
小塚山公園
じゅん菜池緑地
里見公園

◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設（公設）	なし		医療救護所	国立国府台医療研究センター 国府台病院
			関連施設	中国分交番
			-	
			-	
			-	

要配慮者利用施設（民設）

○



※要配慮者利用施設は浸水想定区域内に立地する施設を示しています。

(6) 被害想定結果（地震・風水害）

◆地震災害（被害を受ける割合）

	想定項目	国府台小学校区	市川市全体
建物被害	全壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	1.4%	3.6%
	半壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	11.1%	16.0%
	焼失棟数の割合	1.7%	4.6%
	浸水棟数（津波）の割合	0.0%	0.8%
人的被害	死者の割合	0.0%	0.1%
	負傷者の割合	0.9%	0.9%
	避難者の割合	4.5%	7.3%



◆風水害（被害を受ける割合）

	想定項目	国府台小学校区	市川市全体
建物被害	浸水棟数（江戸川）の割合	2.2%	52.0%
	浸水棟数（真間川）の割合	0.0%	13.6%
	浸水棟数（内水）の割合	1.5%	20.5%
	浸水棟数（高潮）の割合	0.0%	1.5%



市全体の結果と比較すると、地震災害については、建物棟数は多いですが、地形が台地であることもあり、建物被害はやや少ない傾向となっています。また、人的被害については、死者及び避難者はほぼ同程度ですが、負傷者は、市全体よりやや少なくなっています。

一方で、風水害については、江戸川に面していることもあり、一部浸水はあるものの、地形が台地であることから、市全体と比較して浸水棟数は少なくなっています。

(7) 防災上の課題

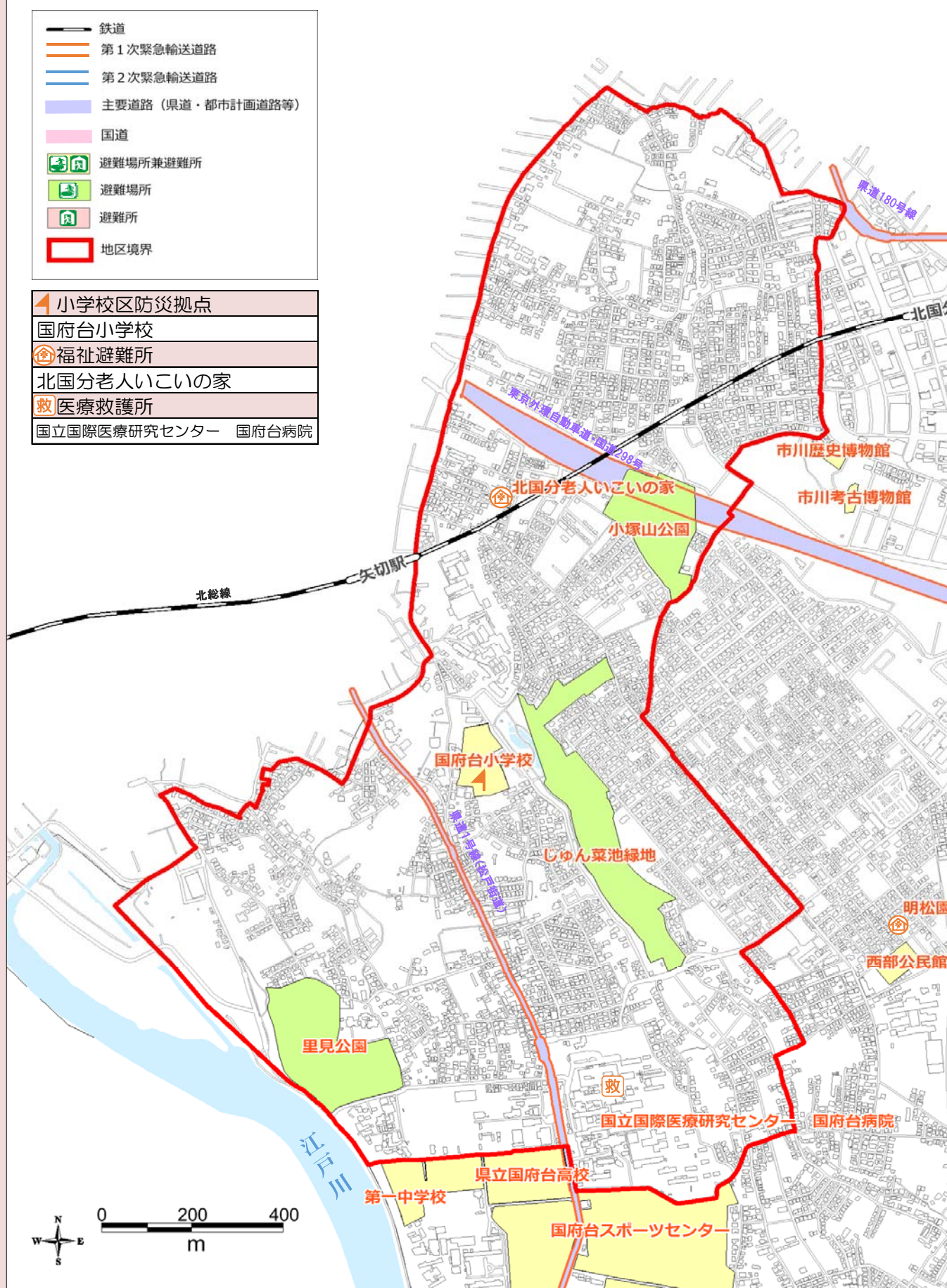
項目	課題
地震	地区全域において最大震度6弱の揺れが予測され、延焼による危険性が高いことから、初期消火対策や延焼対策を行うことが重要です。
風水害	地区内には、狭い道路が多いことから、避難ルート等の確保が重要です。また、延焼遮断となる空地が少ないことから、初期消火の対策が重要です。
まちの安全性	地区内には、狭い道路が多いことから、避難ルート等の確保が重要です。また、延焼遮断となる空地が少ないことから、初期消火の対策が重要です。
地域の防災力	地区では、避難所・避難場所の充足度が低いことから、災害発生時は避難所が混雑する可能性があり、あらかじめ近隣の避難施設を確認しておくことが重要です。

(8) 防災対策の方向性

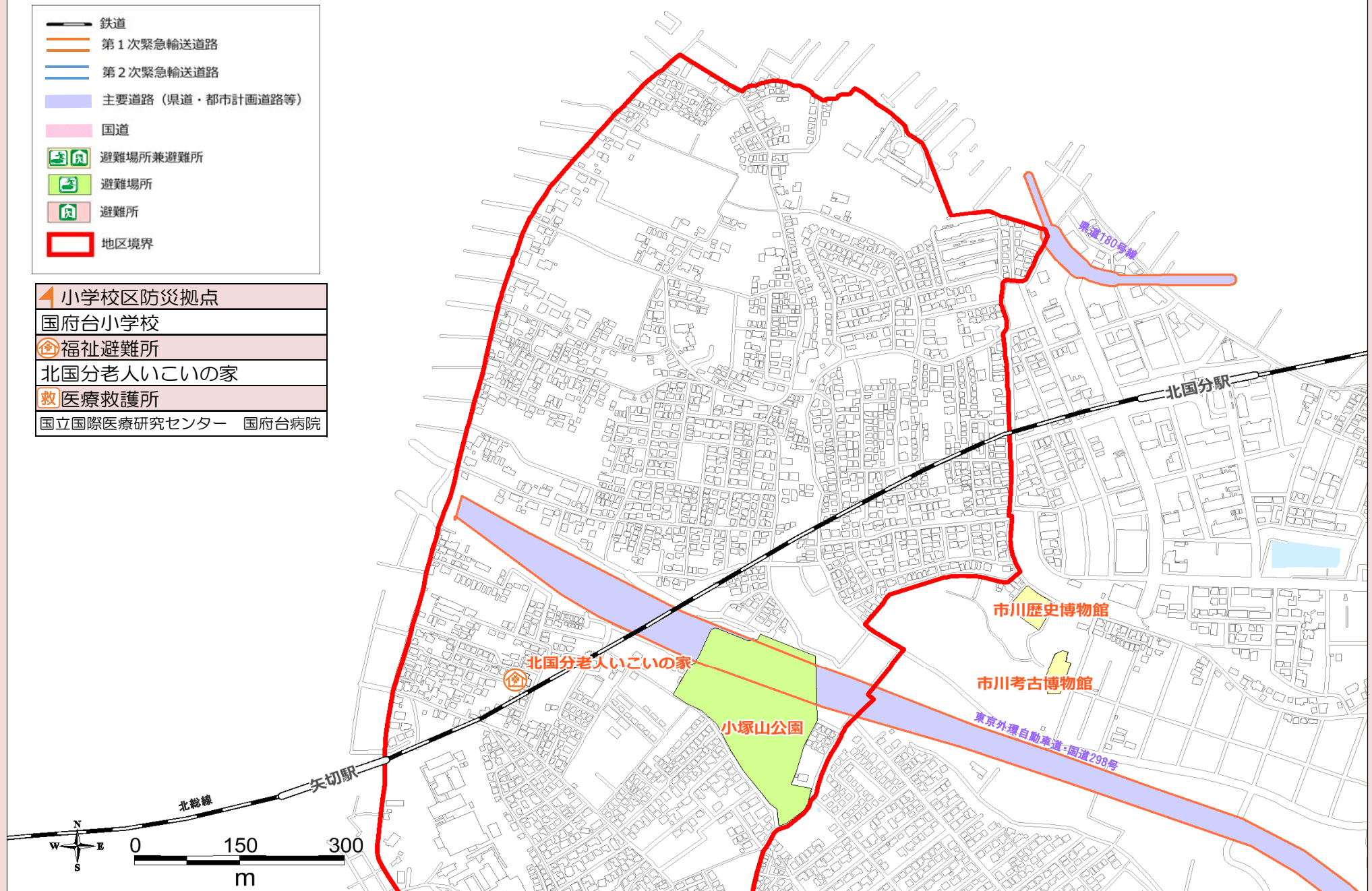
項目	取組の方向性
地域の取組	地区内には、狭い道路が多く、避難ルートや緊急車両が通る道の確保が大切であることから、市の助成制度である「危険コンクリートブロック塀等除却」や「生垣助成」の助成を利用したブロック塀等の倒壊による災害防止と、日頃から安全なルートを確認しておくことが効果的です。また、災害時に負傷者や火災が発生した場合、即座に応急手当や初期消火ができるように、高い防災活動力を活かし、地域で初期対応の訓練を実施するなどの対策が効果的です。江戸川氾濫及び内水氾濫が想定されることから、洪水時の避難場所等も確認し、あらかじめ避難する場所について地区の中で情報共有を行うことが重要です。
個人の取組	地震災害に対する備えとしては、延焼による危険性が予測されることから、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を利用した感震ブレーカーの設置、「家具の転倒防止」を利用した家具の固定、家庭内での水や食料の備蓄をする等、自宅（家庭）の防災性を向上させることが効果的です。

(9) 防災マップ

市川市防災カルテ < 国府台小学校区 >

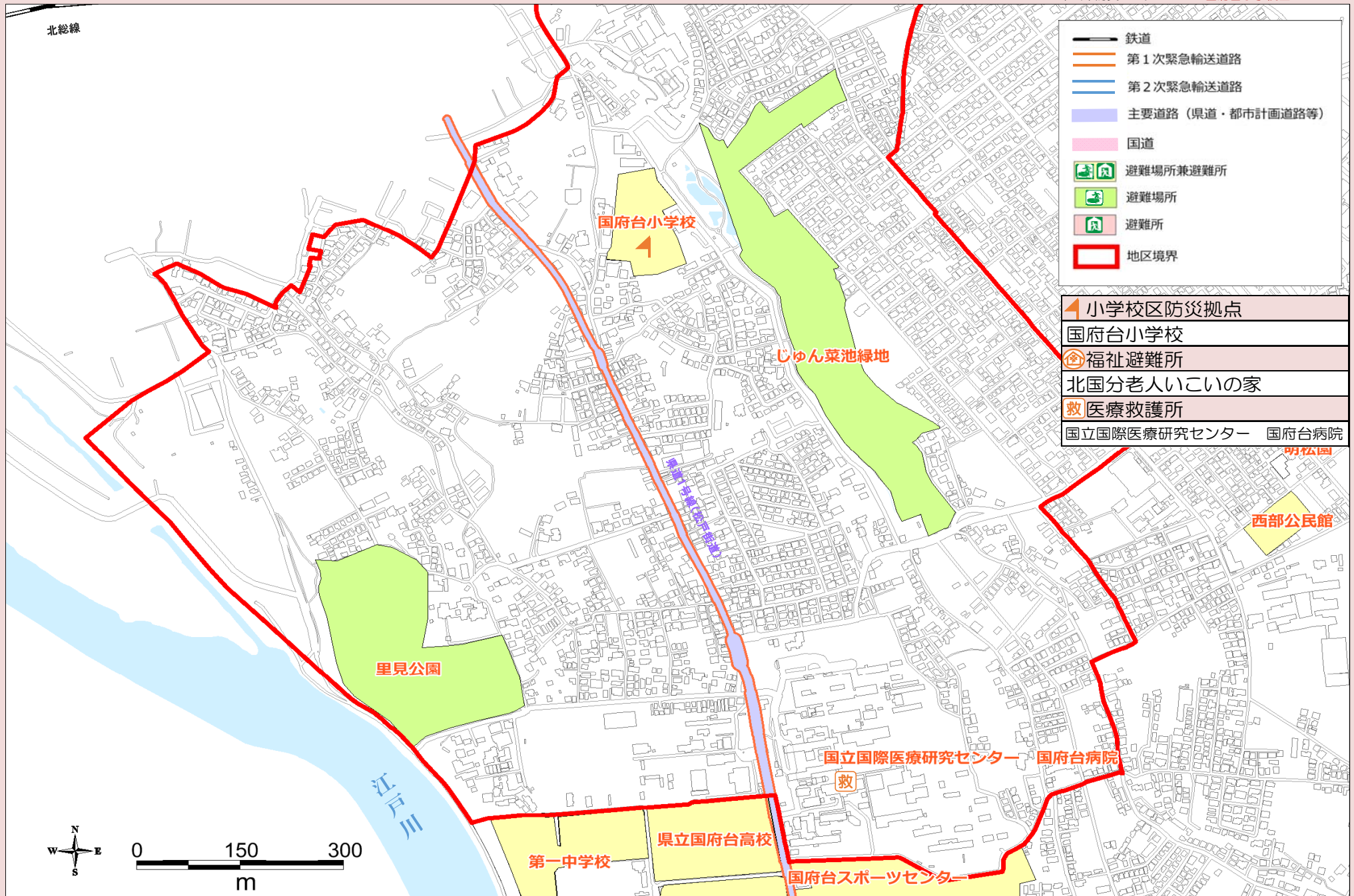


(9) 防災マップ①



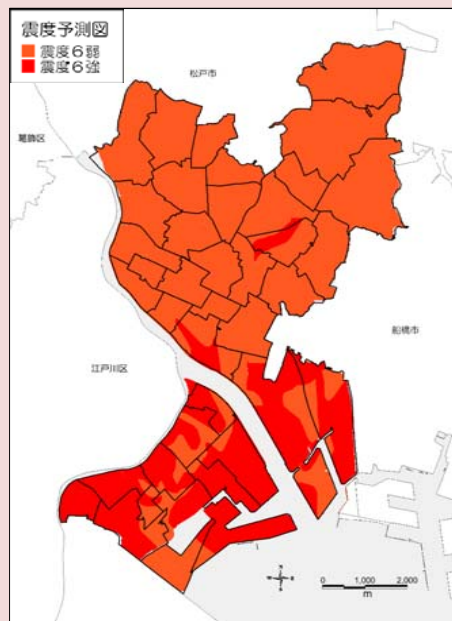
(9) 防災マップ②

市川市防災カルテ < 国府台小学校区 >



(10) 基礎資料

①市全域の震度分布図



本カルテには、東京湾北部を震源域とする地震が発生した場合の結果です。
震度分布図を見ると、市の北部は震度6弱、南部は震度6強と予測されています。

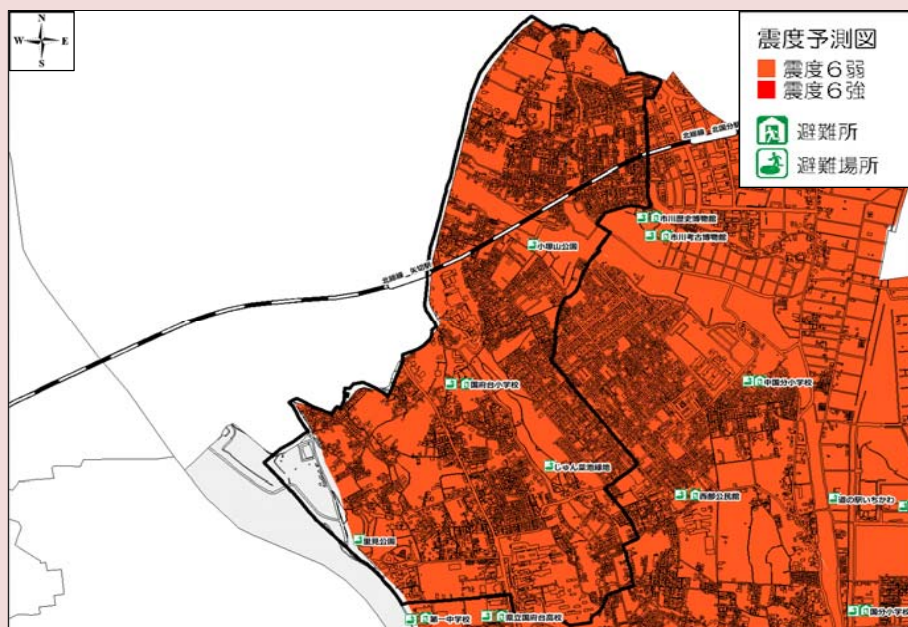
想定地震	東京湾北部地震
マグニチュード	7.3 (震源深さ：20km程度)

▼震源

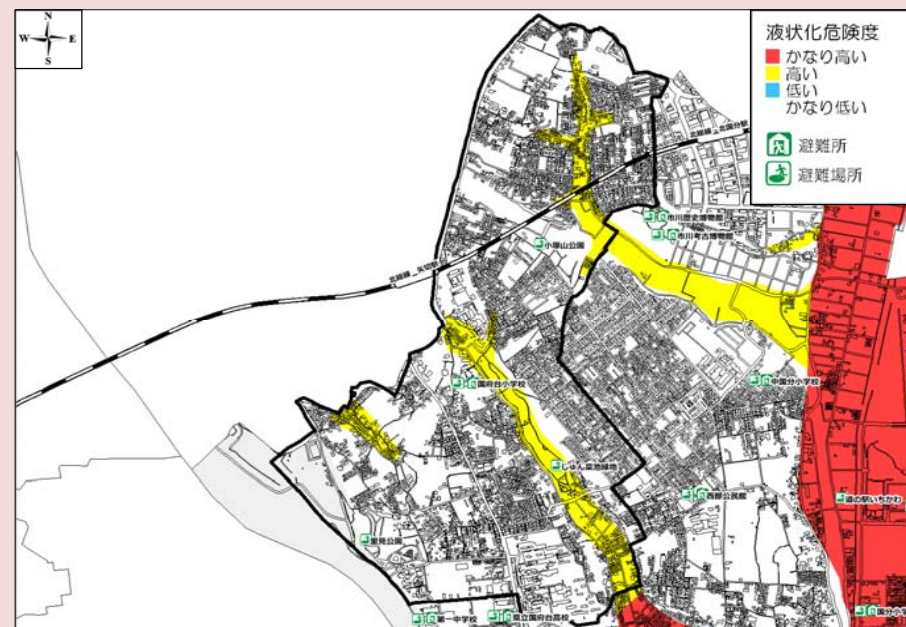


※本結果は市川市地震被害想定結果(平成24年度)に基づいています。

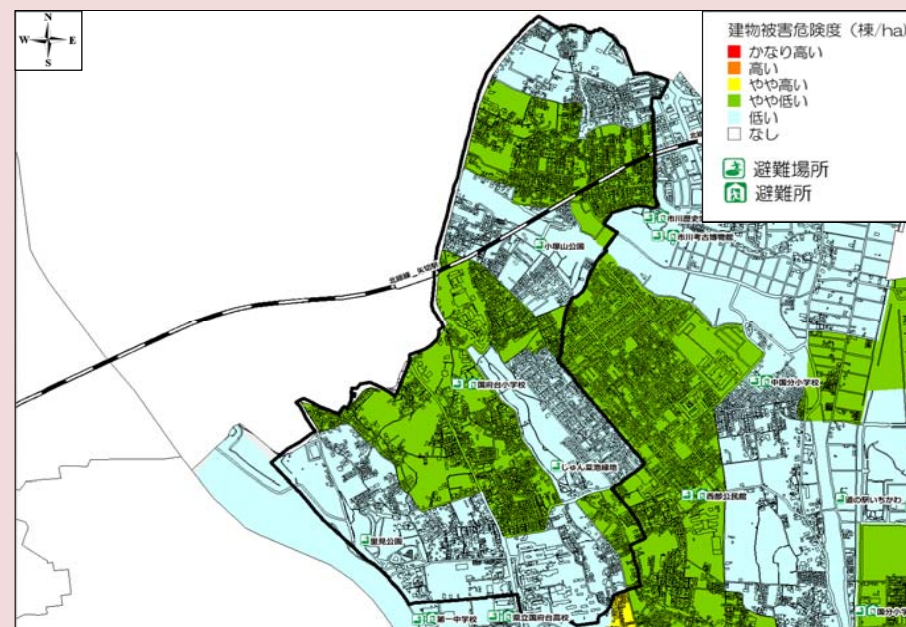
②震度分布図



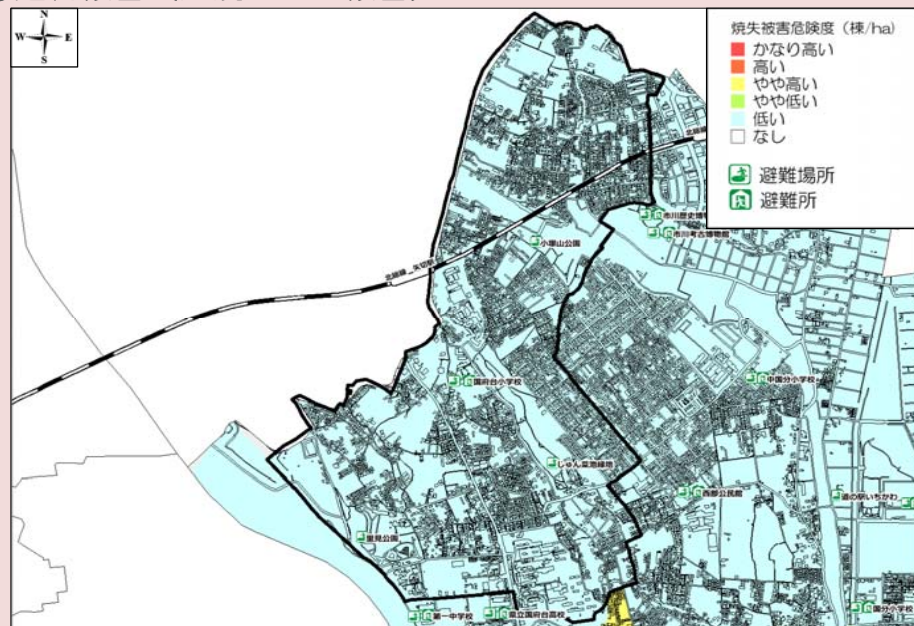
③液状化危険度



④建物被害(揺れ・液状化による被害)



⑤建物被害（延焼による被害）



⑦浸水想定概要

江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。
災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ近隣の避難所及び避難場所について確認しましょう。
また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。

水の深さ

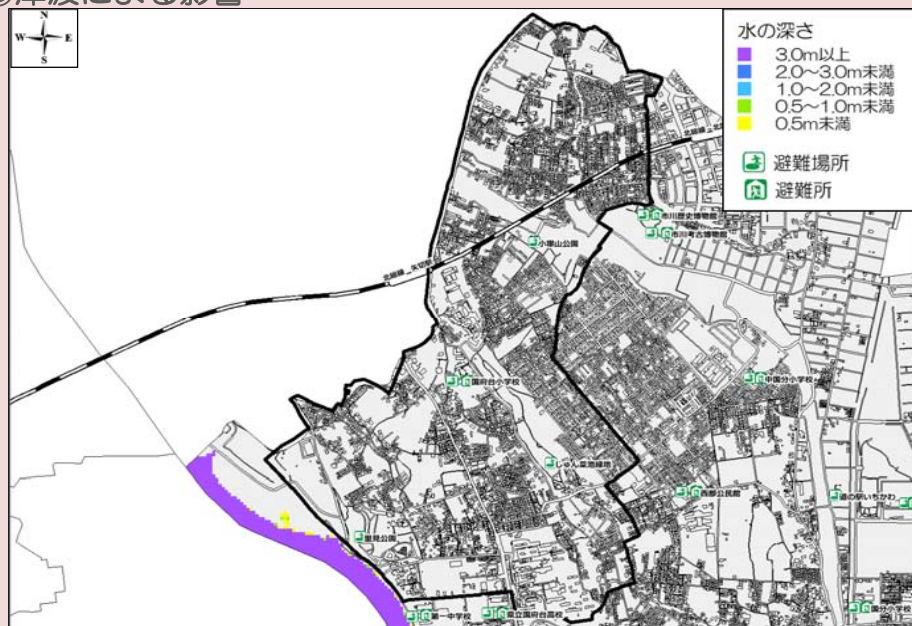
- 水の深さが3.0m以上
- 水の深さが2.0～3.0m未満
- 水の深さが1.0～2.0m未満
- 水の深さが0.5～1.0m未満
- 水の深さが0.5m未満

浸水の目安



※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

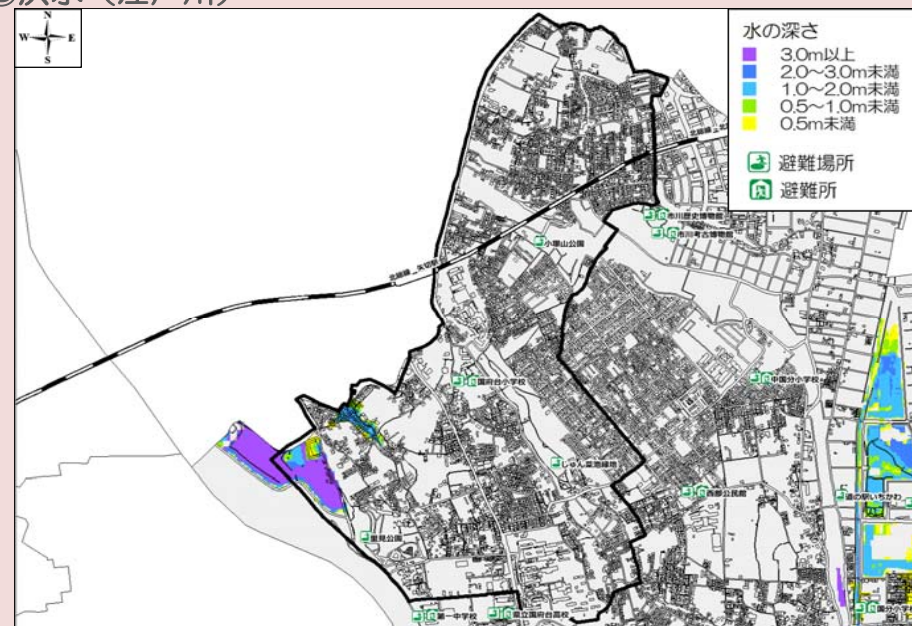
⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

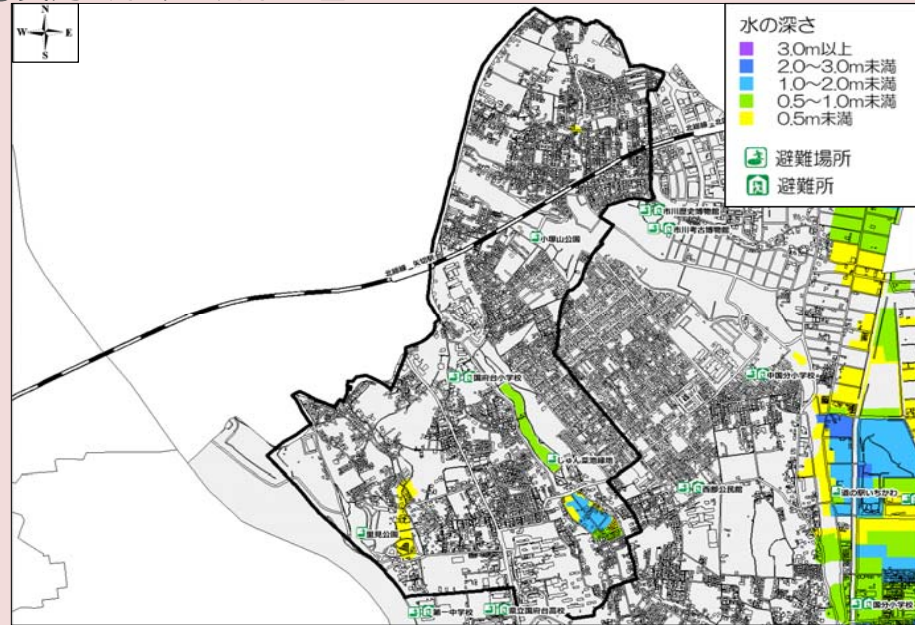
平成24年4月：千葉県

⑧洪水（江戸川）



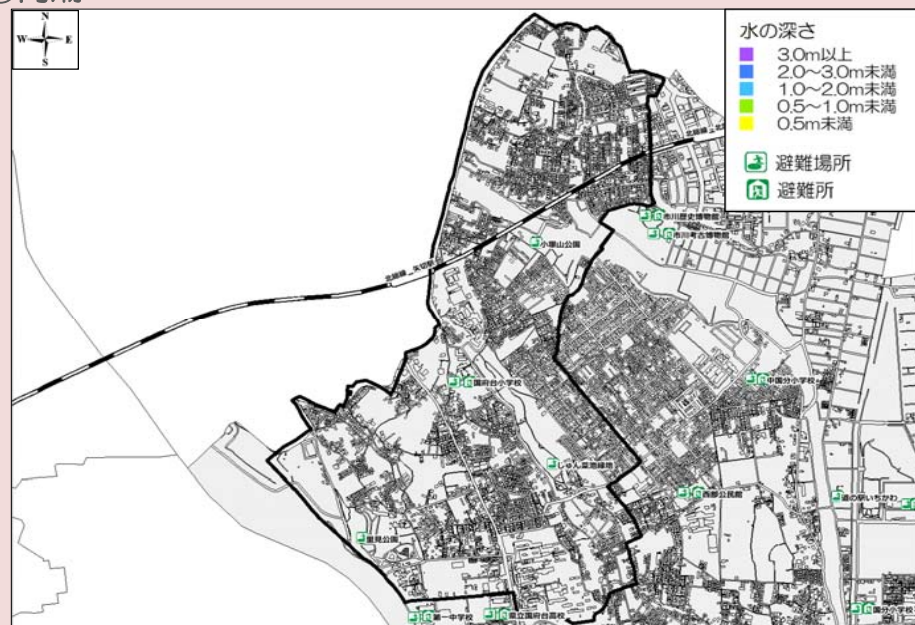
平成29年7月：国土交通省

⑨真間川水系・内水氾濫



平成18年3月：千葉県、市川市

⑩高潮



平成21年4月：国土交通省

◆メモ

